服従捜索試験審査実施要領　（育成）

改訂　2024 年 10 月 31

ここで規定している服従試験（初級、中級）は、作業犬としての訓練の最初のステップとして、ハンドラーと犬がどのような信頼関係で結ばれているかを試すものです。
また、捜索試験（初級、中級）は、災害救助犬としての訓練の最初のステップで、見えている人や、箱に入って見えない人を「捜して」、「居たら知らせる」ことができるかどうかを試すものです。

1　服従訓練試験 初級　〈全て紐付き作業〉

開始および終了申告は、紐付きの脚側停座姿勢で審査員の元にて行う。
脚側停座（原則として、ハンドラーの左側に犬をぴたりと着け並行した形で座らせる）させ、ゼッケン番号・犬名・ ハンドラー名を申告する。

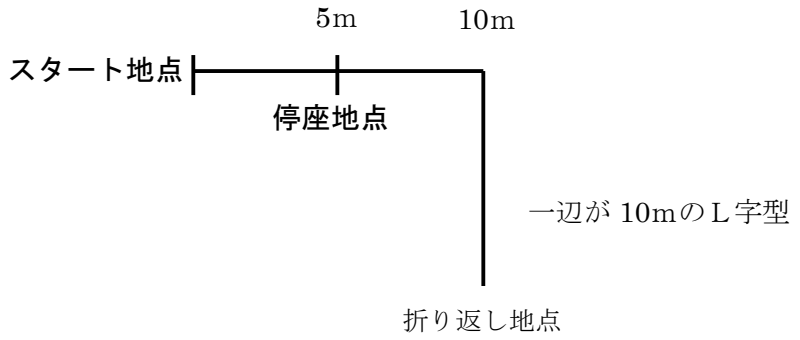
※ ①試技中のハンドラーは姿勢を正しく保ち、犬が生き生きとして行動することが望ましい。
② 声符、視符の乱用やハンドラーの誘導的な態度は減点の対象となる。

１．　脚側行進（紐付き）

スタート地点で脚側停座させる。指示により L 字形のコース２０ｍを往復、常歩にて脚側行進する。折り返し地点では止まることなく右回りで折り返し、スタート地点に戻ったら、（右回りまたは左回りして来た方向に向き、）犬を脚側停座させて終わる。

２．　脚側行進と停座と招呼（紐付き）

スタート地点で脚側停座させる。指示により常歩で脚側行進しコース上の印された５ｍ地点で一旦停まり犬を停座させ、ハンドラーは、紐の長さだけ犬から離れて対面し、指示により招呼し脚側停座させる。



３．　伏臥(伏せ)と招呼（紐付き）

２．の課題終了位置にて脚側停座から犬を伏臥（伏せ）させる。
ハンドラーは、紐の長さだけ犬から離れて対面し、指示により招呼し、脚側停座させる。

４．　立止　（紐付き）

３．の課題終了位置にて脚側停座から犬を立止させる。ハンドラーは、紐の長さだけ離れて対面し、指示により（犬の左側から後方を回り犬の元に戻り）、指示により脚側停座させる。

５．　障害物飛越（紐付き）

板張り障害を片道飛越させる（犬の大きさに応じて高さは調整される）。ハンドラーは飛越障害の前で犬を飛越させるのに必要な任意の位置にて脚側停座させる。指示によりハンドラーは犬に飛越えを命じる。(ハンドラーは犬と一緒に動いても良いが、犬が自主的に飛越えるように心掛けること。）犬が飛越えたら立止の状態で「待て」を命じ、ハンドラーは犬の元に行き脚側停座させて終わる。

２　服従訓練試験 中級

開始および終了申告は。紐付きの脚側停座姿勢で審査員の元で行う。
脚側停座（原則として、ハンドラーの左側に犬をぴたりと着け並行した形で座らせる）させ、ゼッケン番号・犬名・ ハンドラー名を申告する。

※① 試技中のハンドラーは姿勢を正しく保ち、犬が生き生きとして行動することが望ましい。

② 声符、視符の乱用やハンドラーの誘導的な態度は原点の対象となる。

１．　脚側行進（紐付き）

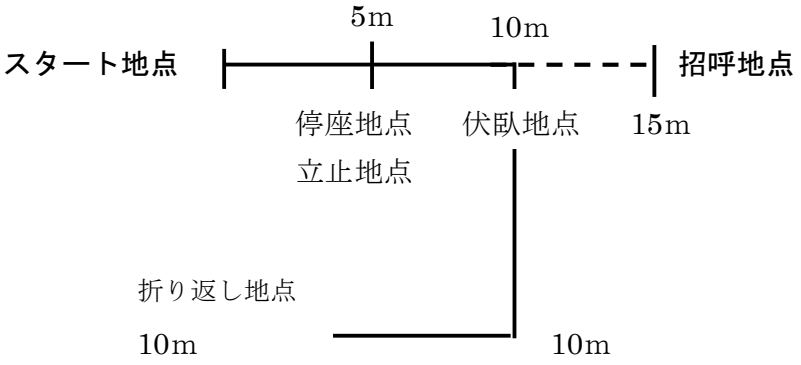
スタート地点で脚側停座させる。指示により一辺が１０ｍのコの字形コースを往路は常歩で脚側行進し、折り返し地点では止まることなく右回りまたは左回りで折り返し、復路は速歩で脚側行進する。スタート地点に戻ったら、右回りまたは左回りして、来た方向に向き犬を脚側停座させる。

２．　脚側行進　（紐なし）

スタート地点で紐を外し、紐付の脚側行進と同じ要領で行う。
リードはハンドラーの肩にかけるかポケットにしまうこと。

３．　常歩行進中の停座と招呼（紐なし）

スタート地点で脚側停座させる。指示により常歩で脚側行進し５ｍの地点で停座を命じ（ハンドラーは声符、視符を使い一旦停止しても良い）、ハンドラーは１０ｍ行進して犬と対面する。指示により犬を招呼して脚側停座させる。



４．　常歩行進中の伏臥と招呼（紐なし）

３．の課題終了位置で脚側停座させる。指示により常歩で脚側行進中５ｍの地点で犬に伏臥を命じ（ハンドラーは声符、視符を使い一旦停止しても良い）、行進してスタート地点で犬と対面する。指示により犬を招呼し、脚側停座させる。

５．　常歩行進中の立止（紐なし）

スタート地点で脚側停座させる。指示により常歩で脚側行進し５ｍの地点で犬に立止を命じ（ハンドラーは声符、視符を使い一旦停止しても良い）、ハンドラーは１０ｍ行進して犬と対面する。指示によりハンドラーは、犬の左側から後方を回り犬の元に戻り脚側停座させる。

６．　障害物飛越（紐なし）

板張り障害を片道飛越させる（犬の大きさに応じて高さは調整される）。ハンドラーは飛越障害の前で犬を飛越させるのに必要な任意の位置にて脚側停座させる。指示によりハンドラーは犬に飛越えを命じる。犬が飛越えたら立止の状態で「待て」を命じ、ハンドラーが犬の元に行き脚側停座させる。

７．　休止（紐なし、３分間）

犬を指示された位置に脚側停座させる。指示により犬に休止を命じ犬から１０ｍ離れ、ハンドラーは犬から見える場所に用意された椅子に対面して座る。

３分経過後、指示により常歩で犬の左側から後方を回り犬の元に行き、脚側停座させて終わる。

※　６の試技後に休止に移動する場合、最初に休止を行いスタート地点に移動する場合は、紐付きで行う。

捜索訓練試験 初級

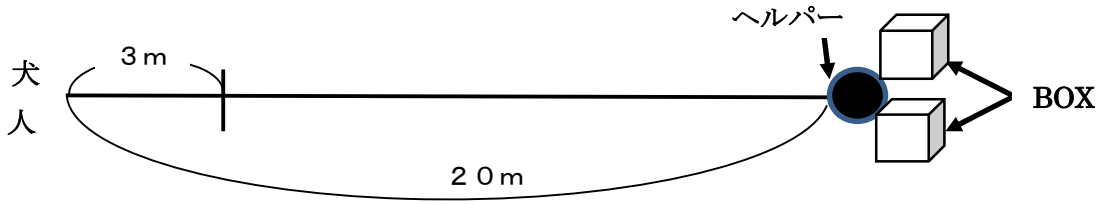
開始および終了申告は、紐付きの脚側停座姿勢で審査員の元にて行う。
ゼッケン番号・犬名・ ハンドラー名とアラートの方法（吠える、座る、スクラッチ等）を申告する。

※ この時期から、ハンドラーが主導で犬を育成する意識を持っていただきます。

1. 見えているヘルパーの捜索

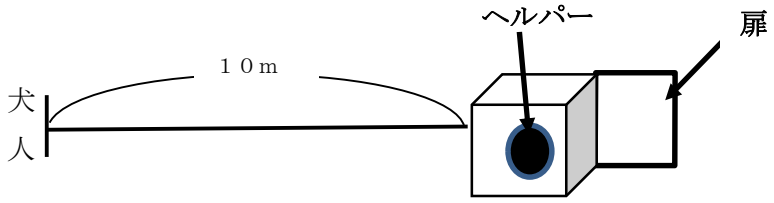
- ハンドラーはヘルパーに対して、自分の犬の意欲の上げ方や褒賞の与え方を具体的に明確に伝える。
- ハンドラーは所定の場所で犬を抑えて待機する。ヘルパーはハンドラーの指示通りに動く。

  通常ヘルパーは犬の前３ｍ位の所から犬を呼び込みながら、小走りで前方２０ｍの場所にあるＢＯＸの傍まで行き、犬と向き合うように身をかがめ指示があるまで静止する。
- 指示により犬を放ち向かわせる。
- 犬がヘルパーの傍に行き明確なアラート継続後、指示でハンドラーは犬の傍に行き、犬を確保する。犬はハンドラーが傍らに来るまで立ち去らずに止まり、ヘルパーに対してアラートし続けなくてはならない。
- ヘルパーはハンドラーの指示通り褒賞を犬に与える。



2. BOX の中に隠れたヘルパーの捜索

- 本試技は１．の試技後続けて行われる。
- ハンドラーはＢＯＸから１０ｍ離れた地点で犬を保持する。
- ＢＯＸの陰から現れたヘルパーは、軽度の誘導的な刺激で犬の注意を引きながら、入口が犬と反対方向に向けられたＢＯＸに入り、扉を半開きにして待機する。
- 指示により犬をスタートさせ捜索させる。発見時の告知方法は１．の試技と同様で、ヘルパーに執着してその場に止まっていることが最も好ましい状態。
  （ヘルパーは犬が傍に留まり、アラートし続けるように努める。）
- 明確なアラート継続後、指示によりハンドラーは犬の傍に行き、犬を確保する。



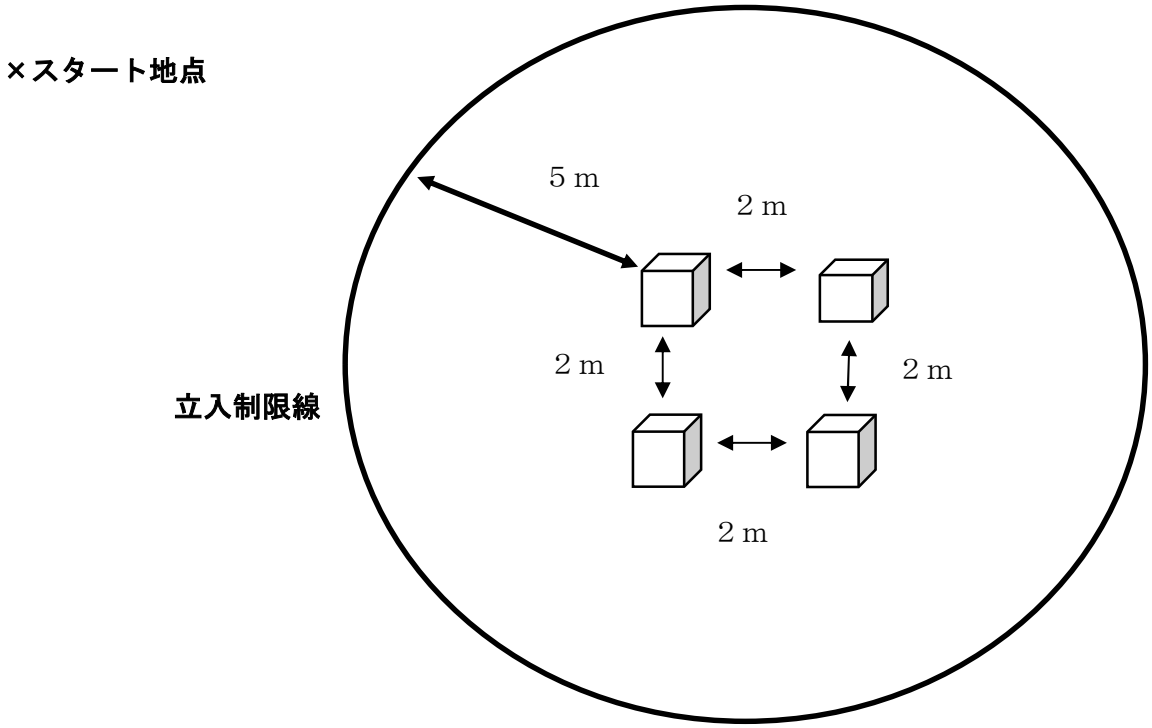
4 捜索訓練試験 中級

開始申告は、紐付きの脚側姿勢で審査員の元にて行う。
ゼッケン番号・犬名・ ハンドラー名とアラートの方法（吠える、座る、スクラッチ等）を申告する。

※①ハンドラーは、臭いの流れを考えて犬をコントロールするが、誘導による告知を促してはならない。
② 犬が捜索に集中しない時は、審査員の判断により時間内でも中止が宣告されます。
③ 犬に対するハンドラーの声・視符はアラートを促す指示以外は任意とします。

１．臭覚による捜索と告知

・ハンドラーと犬は設定が見られない場所に待機する。
・立ち入りを制限する線から５ｍ離れた所に、それぞれ ２ｍの間隔で置かれた ４ 個の ＢＯＸ内のどれかに隠れている一人のヘルパーを臭覚で捜し出し、告知を行う。作業時間は３分間とする。
・指示によりスタート地点から紐なし作業を開始する。ハンドラーはこの段階から臭いの流れと犬を出す方向を考えて行動するが、誘導による告知を促してはならない。
・犬の明確な告知後に、指示によりハンドラーは立入制限線内の犬の元へ行く。
・ハンドラーは犬を褒めた後、立入制限線外に出て、スタート地点に戻り脚側亭座させ作業を終了させる。
・２回目の捜索を行えるかは審査員が判断する。



２．２回目の臭覚捜索の実施方法

２回目の捜索は１回目と同じ方法で行うが、発見しアラートが確実と認められた時点で、ハンドラーは指示により立入制限線の外から犬を招呼し、スタート地点に戻り脚側停座させ作業を終える。

5. 捜索訓練試験　上級

開始申告は、紐付きの脚側姿勢で審査員の元にて行う。

ゼッケン番号・犬名・ ハンドラー名とアラートの方法（吠える、座る、スクラッチ等）を申告する。

① ハンドラーは指定されたエリアへ脚側により向かい、指示により捜索に入る

② 指示により臭いの流れを考えてへ５ｍ以上離れた場所から犬を出す。指示された捜索個所を捜索するが、その際アラートの誘導をしてはならない。

③ 犬が発見し、アラートが確実と認められた時点で、ハンドラーは指示により犬を称呼し、脚側停座につける。

④ 指示により、次の捜索個所へ向かう。全３か所の捜索を行う。